

NRW州政府・デュッセルドルフ市主催日本向け新年会挨拶
(於:ラインテラッセ)

2017年1月18日
在デュッセルドルフ日本国総領事
水内 龍太

レルシュ=メンゼ連邦・欧州・メディア担当大臣、
ガイゼル・デュッセルドルフ市長、
ご来場の皆様、

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、2017年は「丁酉」(ひのと・とり)という年で、この「とり」はニワトリではなく金属を意味するので、「火が金属を溶かす」ことを示しています。決して「おとなしい、静か」を意味するのではなく、「成長」「展開」を示唆するものです。

今から60年前を振り返ると、ソ連が初の人工衛星スプートニクを打ち上げ、日本では初の原子炉が東海村で稼働しました。ともに、その後の科学の発展にとっては画期的な出来事でした。

そのような目で見ると、今年、予想もしないような大きなことが起こるかもしれません。BrexitによるEUと英国との離婚協議がどのように展開するのか、トランプ大統領の外交政策はどうなるのか、目が離せなくなります。東アジアに目をやると、秋には習近平政権の2期目の人事が確定します。習近平主席が内政的にこれまで以上に権力集中を進めるのか、それとも指導部内部の権力闘争がまだ続くのかは世界に大きな影響を与えます。もっとも、中国の外交姿勢がソフトになる可能性はいずれにしても小さいと私は思います。

ドイツのウォッチャーとしては、個人的に5月のNRW州議会選挙と9月の連邦議会選挙に注目しています。昨年ベルリンで起きたクリスマスマーケットでのテロ事件が大きく影響しないことを願っています。

不確実な世界情勢の中で、日本とドイツはともに安定要因です。昨年11月のガウク連邦大統領にとっての訪日は、「忘れえぬ出会い」となったそうです。日本は3月のCEBIT(メッセ・ハノーファー)のパートナー国となっています。7月のG20サミット(ハ

ンブルク)と並んで、安倍総理の訪独の機会が2回訪れます。世界経済の安定的な運営、各地の不安定要因の除去のため、日独両国が手を取り合って世界をリードしていくことが今日ほど重要な時はありません。

昨年11月2日にクラフト州首相は、当地の日本ビジネスのトップを招いて夕食会を開いてくれました。Brexit の影響、インダストリー4.0、デジタル化の教育への影響等について、有益な意見交換を行いました。これらの問題について、日独で専門家のタスクフォースを作って検討しようとの合意ができました。これは、然るべくフォローアップされる必要があります。本年の経済シンポジウムは、その議論を継続する適当なフォーラムでもあります。

我々日本総領事館も、今年で50周年を迎えます。総領事館が50年の歴史を積み上げられてこられたのは、当地の日独市民のご理解と暖かいご支援があったからこそだと思います。次の50年間に向けて皆様とともに新しい展望を描きたいと考えております。

昨年の天皇誕生日レセプションでも申し上げましたが、当地の日本人コミュニティは、3代目に代替わりしようとしています。日独の文化を継承したハイブリッドの世代のために、持続的な基盤を残すことが我々の務めです。そのような努力の一環として、NRW州内の日本のプレゼンスを、より広く、より深い関係に展開していきたいと思えます。日独交流のキープレイヤーである皆様とともに、日独関係の一層の深化のため、充実した一年を構築したいと思えます。

最後に、本年の皆様のご多幸を祈念して挨拶に代えさせていただきます。